

中医協「第 333 回 総会」
DPC 評価分科会の検討課題を了承

2016/6/22

6月22日の中医協・総会（会長：田辺国昭・東京大学大学院法学政治学研究科教授）では、DPC 評価分科会の今後の検討課題案が了承された。



2018 年度診療報酬改定に向けた検討課題には、下表の項目が挙げられている。総会に先駆けて議論が行われた基本問題小委員会では、万代恭嗣委員（日本病院会常任理事）から「医療機関群についてはⅡ群とⅢ群を行き来している病院が一定程度あることを重く見て検討すべき」との要望が出たほか、総会では猪口雄二委員（全日本病院協会副会長）から「持参薬について『既に出ている薬は無駄にしない』という考え方があってもよいのではないか」といった意見も出された。

次回改定に向けた検討課題

基礎係数(医療機関群)の在り方	等	診断群分類点数表について	等
Ⅱ群の選定要件		CCPマトリックス／適切な傷病名コーディングの推進／ICD-10(2013年度版)への対応時期	
調整係数の在り方	等	請求に関するルールについて	等
2018年度置き換え完了予定の調整係数の在り方 ／激変緩和措置の在り方		持参薬の在り方	
機能評価係数Ⅱについて	等	その他	等
病院情報の公表／後発医薬品係数／重症度係数 ／各係数の重み付け／医科点数表改定の影響の 反映／機能評価係数Ⅱとして評価すべき新規項目		DPCデータの収集方法／DPC制度の手続き遺漏の 対応	

■入院調査案を概ね了承

入院医療等の調査・評価分科会からは、2016・2017年度に実施する調査内容案が報告され、概ね了承された。2016年度は「重症度、医療・看護必要度（1回目）」「地域包括ケア病棟入院料」「療養病棟入院基本料等」「退院支援」、2017年度は「重症度、医療・看護必要度等（2回目）」「短期滞在手術等基本料、総合入院体制加算」「救急医療管理加算等」について調査を行う（中医協「第1回診療報酬調査専門組織入院医療等の調査・評価分科会」http://www.medical-lead.co.jp/documents/160617nyuiniryuo_001.pdf参照）。

総会の前に報告された基本問題小委員会では、幸野庄司委員（健康保険組合連合会理事）が「病床機能ごとの連携や介護との連携の状況、7対1以外の一般病棟入院基本料の患者像などにも着目して調査すべき」と要望した。また、松本純一委員（日本医師会常任理事）は「療養病棟入院基本料等の影響を見るには1年目（2016年度）だけでは不十分。2017年度も調査を行うべき」とし、今後検討する方向となった。

その他、2014年度調査は36.5%、2015年度調査は40.7%だったアンケートの回収率について花井十伍委員（日本労働組合総連合会「患者本位の医療を確立する連絡会」委員）は、「マンパワー不足など、負担が大きくて回答できていない医療機関の実態が、診療報酬に反映されないのではないか」と問題提起し、事務局は「そうしたバイアスができるだけかからないように、有識者の意見を聞きながら改善していく」と応じた。

■病院合併後のDPC継続参加を了承

会合では、DPC対象病院である加古川西市民病院と加古川東市民病院が2016年7月1日に合併した後も、DPC制度に継続参加することが了承された。両病院は合併後、「加古川中央市民病院」としてDPC算定病床数600床になる予定。

■新規薬価収載を了承

医薬品1成分1品目が6月29日に薬価収載されることも了承された。なお、ゲンボイヤ配合錠は患者の安全性が確保されていることから、新薬の処方日数14日制限の適用から除外される。

薬価収載一覧表 (2016年6月29日 収載予定)

錠柄名	規格単位	会社名	成分名	算定薬価	薬効分類		新薬収載希望者による市場規模予測	最初に承認された国
ゲンボイヤ配合錠	1錠	日本たばこ産業	エルビテグラビル/コピシスタット/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩	6,942.10円	内625	抗ウイルス剤 (HIV-1感染症用薬)	ピーク時(10年度) : 4,200人、 106億円	米国

※中医協の資料を基に作成